

令和2年7月17日(金)
令和2年度 第1回支援コーディネーター全国会議・シンポジウム

当事者の家族の立場から 「家族会について」と 当事者の声



高次脳機能障害友の会・いばらき

当事者発表 石崎 美香

代表 滝沢 静江

高次脳機能障害友の会 いばらきの歩み

- 平成16年 脳損傷友の会・いばらき 集会活動が始まる
- 平成17年 神栖地区集会活動が始まる
- 平成18年 県北地区, 県南地区, 神栖地区担当の地区委員配置地区集会活動が本格化
- 平成19年 会報誌「筑波のかえる」発行を開始, 年4回定期発行
- 平成25年 当会窓口を筑波記念病院リハビリテーション部へ移転し「家族会交流室」事業を筑波記念病院内にて開始
- 平成26年 設立10周年記念として当事者情報を集約し記載できる「わたしのことファイル」を作成, 会員・関係者へ配布
- 平成27年 設立10周年記念事業として, 記念大会をリハビリ講習会と併せて開催
- 令和元年 会の名称を「高次脳機能障害友の会 いばらき」に変更
「家族会交流室」事業の会場を筑波大付属病院内に移設
- 令和2年 「当事者会」を定例会として始める

※ 現在会員数57家族114名 賛助会員40名

主な活動

- ▶ 高次脳機能障害とその支援に関する知識の普及啓発を目的とした「茨城県リハビリ講習会」年2回開催に、実行委員として協力
- ▶ 高次脳機能障害者の事例検討会を行っている「大人とこどもの高次脳機能障害を考える会いばらき」への協力
- ▶ 県に要望書を提出
- ▶ 会員相互の交流の場として、家族と当事者の集会を、水戸・神栖・つくばの3地区にて開催、他にも学習会を開催
- ▶ 作業療法士会の支援を受け、日帰りバス旅行、調理会などの活動
- ▶ 高次脳機能障害に関する相談交流会「家族会交流室」の開催
- ▶ 会報「筑波のかえる」を年4回発行
- ▶ ホームページの掲載
- ▶ 研修会・講演会などの講演協力

県南集会 コラージュ教室

素敵な作品ばかりです！



県南集会

俳句アートワーク教室

支援センターの小原センター長に講師をお願いして、俳句を創りました。とても良い経験となりました。



当事者会を開催

高次脳機能障害支援センターのご協力で当事者会を開催。「笑顔で楽しく過ごす秘訣」をテーマに、元気になる方法をみんなで一緒に考えました。



高次脳機能障害支援センターとの連携

- ▶ 水戸・神栖・県南の3地区で行っている家族の交流会に相談支援コーディネーターが参加。専門的な相談にも対応していただいている。
- ▶ 家族会の集会、当事者会に支援コーディネーターが参加、企画にも支援協力をお願いした。
- ▶ 家族会会員の個々の相談に対応していただいている。
- ▶ 茨城県の施策として家族会の当事者がデザインをした缶バッチを制作。発表会を開催して、広く高次脳機能障害の理解啓発を行った。
- ▶ 支援センター開催の講演会・研修会に家族、当事者が体験発表者として協力。
- ▶ 地域ネットワーク形成の一環としての支援機関・施設連絡会に家族会として参加。意見交換を行った。

作業療法士会との連携



調理会



美味しくできました！

バス旅行





バーベキュー



笑顔がいっぱいあふれる会でした。

会報と家族会交流室



高次脳機能障害をご存知ですか？

もしかしたら、あの時の事故・病気の影響が…
脳は柔らかいのです——

症状

- 少し前のことをすぐ忘れる
- 新しいことが覚えられない
- 外出先から戻れなくなる
- 性格が変わってしまった
- 元気そうに見えるのに自分から何もしない
- 突然キレたり怒り出したりする
- 気が散りやすく疲れやすい
- 家族とも会話がなりたない

原因

- ・脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）
- ・脳外傷（交通事故・転落・スポーツ事故）
- ・低酸素脳症（心肺停止や水に溺れたなどの原因で、脳に酸素がいかなくなった症状）
- ・脳腫瘍、脳炎など



何かおかしい、以前と様子が違うなど、あなたや家族が「高次脳機能障害では？」と気づいたら、相談できる人や場所、仲間や情報が必要です。あきらめないで！すこしずつ歩き出しましょう。

家族会交流室のご案内

「高次脳機能障害友の会・いばらき（旧 脳損傷友の会・いばらき）」では、毎月一回、情報交換の場や学習会を開き、回復に向けた交流をしています。

日時：毎月第2金曜日（11時～14時）

場所：筑波大学附属病院 B棟 351-1室

〒305-8576
茨城県つくば市天久保2丁目1番地1

TEL: 080-5901-9979

（問合せ・受付は平日9時から15時まで）

筑波大学附属病院



当事者発表とコンサート



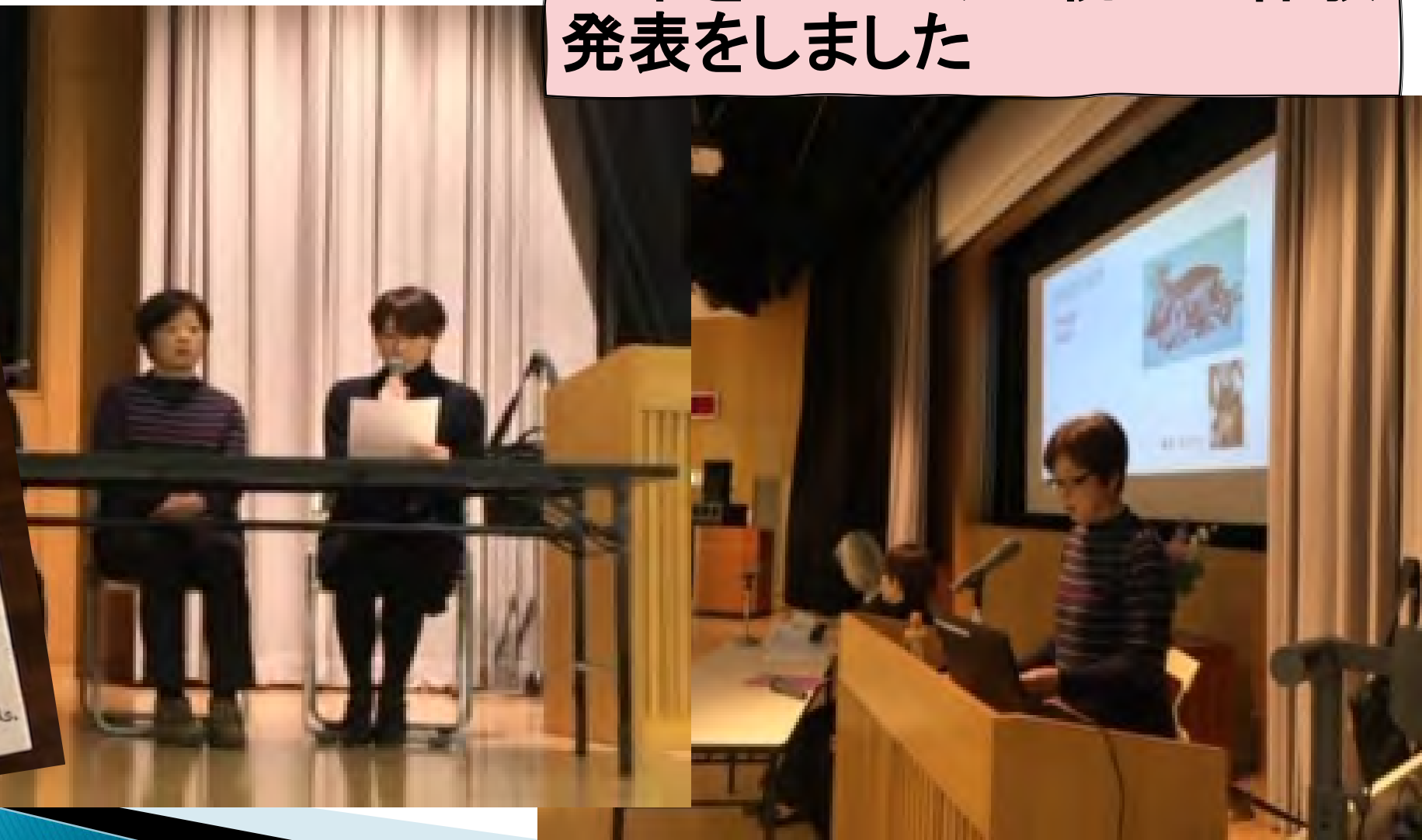
当事者の藤井ケイイチさんの歌声は本当に心に響く歌声です。
昨年11月には志村大宮病院で院内コンサートを行いました♪これからも活動が続けていきますのでよかったら声をかけてください。



講演会にて親子で発表

お母さまが執筆された「お母さんのこと忘れてらごめんね」の本をきっかけに親子で体験発表をしました

お母さんのこと忘れてらごめんね
TAKASHI
There is always light behind the clouds.



家族会からみた茨城県の支援状況と課題

支援状況

- ▶ 平成30年、「リハビリは地域で」ということで県立リハビリテーションセンターが廃止され同年に高次脳機能障害支援拠点を専門職（心理士・看護師・生活支援員・福祉相談員）のコーディネーターと嘱託医師が従事する「茨城県高次脳機能障害支援センター」として県立医療大学の敷地内に新たに開設。
- ▶ 相談・技術支援として地域に赴いて支援する「モバイル型支援」を開始。
- ▶ 支援ネットワーク構築のため、高次脳機能障害支援協力病院として、27病院が県に指定され、連絡会・研修会を実施。また、県内の医療・福祉圏5ブロックで支援機関・施設連絡会を開催。医療・福祉・行政・就労・家族会の積極的な交流と情報交換を進める。
- ▶ 家族会支援として家族会交流会、集会活動、当事者発表、講演協力などに支援と連携。

課題

- ▶ 廃止された県立リハビリテーションセンターで行っていたような、入所型の複合的な高次脳機能障害の専門的リハを実施できるところがない。
- ▶ 茨城県内の市町村で高次脳機能障害の窓口担当課の理解と支援が不足している。
- ▶ 社会的行動障害で支援が困難になり、偏見が強まるなど、まだまだ高次脳機能障害の理解が進んでいない。
- ▶ 茨城県内で高次脳機能障害に対応できる地域資源が少ない。
- ▶ 高次脳機能障害者を復職、就労につなげる地域支援が乏しい。

県によって高次脳機能障害の支援体制が大きく違う。地域格差の是正のためにも発達障害者支援法のような国の対策が必要。

私たちの取り組み

- ▶ 会員相互間、ならびに行政・医療・福祉等の関係者との交流や連携によって情報交換や課題を共有し、支え合うネットワークづくりが出来たらと思います。
- ▶ 地域社会の方々に認知・理解していただけるように活動していきたいと思っています。
- ▶ 高次脳機能障害者のより良い環境の改善に向け、行政へ要望して参ります。

今後ともよろしくお願いいたします。



ご清聴ありがとうございました。